

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600422		
法人名	医療法人社団 聖パウロ会		
事業所名	グループホーム今日香 さくら		
所在地	静岡県磐田市上野部1519-5		
自己評価作成日	平成25年10月29日	評価結果市町村受理日	平成26年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域で、一人一人が思い思いの生活をのんびりとしたペースで過ごせるよう工夫している。そのために、あえて施設での決まりは作らず、自由に生活できるような心がけている。また、平屋建てなので、いつでも入居者が外に出て過ごす事が出来るということで、数年前にイングリッシュガーデンを造り、安全に散歩ができるよう工夫している。医療面については、医療法人なので、1日2回看護師が、週に1回医師が往診に来てくれている。また、24h態勢なので、夜間も安心して過ごしていただけの環境が整っている。そのため、重度化しても病院ではなく、最後まで今日香で過ごす事を希望される方も多い。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2276600422-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成25年12月2日		

管理者は入居者を人生の先輩として学ばせてもらっている事、職員は本人の不自由になってできないことを介護でお手伝いをする事をふまえて、入居者、職員同士がお互い様の心で過ごしていけるよう伝えていて、職員は納得して気配りある対応をしている。管理者をはじめ職員は若く活気にあふれていて、実の祖父、祖母のように思い、その人の目線で隔てなく接している。入居者はだんだん重度化してきており、対応が困難になっているが、声を掛け合い適切な対応をしている。事業所の前のイングリッシュガーデンに近所の方や家族の方が手入れに来てくれている、花の季節には遠くの方からツアーで見に来ることがある。近所の方の憩いの場にもなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	両フロアの玄関に飾ってあるため、管理者と職員全員が把握出来ている。また、入社時や会議などでも理念について説明をしている。	「お互い様の心」の理念を管理者は一方的に言うだけでなく読んで考えることで理解に繋がると、職員に前触れなく直接質問している。職員の日頃の動きを見て気配りがされているかを確認していて、新人職員にも浸透されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地区の祭りや清掃活動にも参加している。また、祭りの前夜祭には今日香の庭でジャズライブを開催しており、地区の皆様にも回覧板でお知らせし、参加して頂いている。	管理者は地域の清掃活動等に参加している。入居者は車いすの人も散歩に出て、事業所の前のイングリッシュガーデンに手伝いに来る方やお花を見に来る近所の方と交流があり、顔を覚えてもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の包括支援センターが行っている家族交流会に参加し、自宅で介護されているご家族と話をさせていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ケアに関して困った事などがあれば、相談したり話し合ったりして、意見を聞き参考にさせていただいている。また、入居者様の病気についても、聞き慣れない病気については説明している。	年間計画を立て、参加者に配布、案内を出している。市、包括、民生委員は毎回出席しているが、町内役員や家族の参加が少ない。管理者は会議で出た意見から課題を見つけ、話し合っ改善に努めている。家族に議事録は配布していない。	家族に会議の内容を知らせることで理解を得て、参加しやすい環境を整え、より良い会議になることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などで話し合った内容について、市の職員さんが調べてくれ、連絡をくれることがある。また、分からない事があれば連絡し、相談させて頂くこともある。	包括が主催している在宅の人の「家族会」に管理者が出席している。管理者は市の担当窓口に向き、直接質問や相談をすることがあり、電話や会議で意見を聞くことがあるなど交流はある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会の資料の中に、介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為という項目も入れて行っており、職員全員が把握出来るよう努めている。	ベッドから転落の危険のある人にベッドを下まで下げ横に布団を敷いて防止をする。車いすからずり落ちそうな人はソファに座る等工夫をして拘束はしていない。管理者が作った「高齢者虐待と身体拘束」のマニュアルを基に勉強して周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行っており、普段の自分達の声かけや対応の仕方などを振り返る機会をつくっている。また、普段も気になることがあれば、職員同士注意し合える環境作りに努めている。		

静岡県(グループホーム今日香 さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年も成年後見人制度を取り入れたご家族様が いるため、職員全員に説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	何かあるごとに、説明書を作成し、ご家族様に 送っている。また、面会時などにも直接説明し、 不安な事や気になることがあれば、その都度説 明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員なら びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	玄関に意見箱を設置している。 また、年1回家族会を行い話をさせていただいて いる。普段は面会時などに話をさせていただき、 そこで出た要望に関しては、職員と相談し改善し ていくよう努めている。	意見や要望は面会時に聞いている。家族の希望 が本人に副ったものであるか職員会議で話し合 い、共有して即実践できることは反映させている。 「脳に良い水やサプリメントを使ってほしい」要望 に医師、看護師の許可が出て味噌汁に入れること にした事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議では、係の担当から話をしてもらい、少 しでも話しやすい環境作りを心がけている。 また、要望があった場合には、その都度職員と 相談し、みんなが使いやすいよう、過ごしやすい よう、対応している。	会議の場だけでなく、日頃言い易い関係になっ ていて、意見、要望を聞いている。聞いたことで即実 践した方が良いものは、近くにいる職員と話し即 対応している。内容はフローノートに記入し申し 送り、全職員で共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	年数によって支給額が上がる。 資格取得に応じて資格手当が支給されている。 また、スキルに応じて介護職手当の支給額が上 がる事もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくこと を進めている	キャリアパスに応じて法人内での研修を行って いる。 また、法人外の研修にも参加してもらえよう努 めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	法人全体での勉強会を行っており、職員同士交 流する機会を設けている。 また、施設交流会にも参加しており、法人外の施 設の方とも交流がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず本人が生活している場に行き、状態の把握をさせていただいている。 また、訪問時にも普段の生活をして頂き、あえて質問をせず、何気ない会話の中から不安な事などを把握出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	普段の生活の場や施設など、場所を変えて話をする事で、自宅での様子や施設に入居されてからの不安など、イメージが具体的に出来るよう努める。それにより少しでも不安が軽減できるようにしていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム対象者ばかりであり、入居希望の相談しかない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者様が自然に何かをしたくなるような環境作りを心がけ、食器洗いや掃除なども一緒に行っている。 また、昔の話や知恵などを聞き、一緒にやることで、職員も参考にさせてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様より、何か本人にしてあげたいという意見があった時には、なるべく意向に沿うよう努め、心配な事などがあった時には一緒に考え、対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の友人などが面会に来たり、面会に来た方以外にも知り合いがいると、何人かと話をして帰られたりしている。 また、面会だけでなく手紙の交換をしている方もいる。	友人や近所の方の訪問がある。本人が乗っていたトラックで迎えに来て、ドライブに出かける人がいる。家族と一緒に出掛ける時とろみ食を2回分渡し、ゆっくり外食して過ごされるよう支援している。地域がら小国神社へ希望する人が多く、職員や家族がドライブで連れて行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者様同士を同じテーブルにしたり、一緒にソファに並んで座ってもらったりすることで、関わりを多く持てるよう工夫している。 また、居室で過ごされる入居者様も、体調が良い日にはフロアに来れるよう努めている。		

静岡県(グループホーム今日香 さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	最後までお世話をさせて頂く事がほとんどなので、あまり関わり合う機会がないが、近所に住んでいるご家族様が施設の庭を見に来てくれたり、連絡をくれたりする事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から訴えある時は、なるべく意向に沿えるよう努めている。困難な場合は、表情や仕草など、少しの変化でも見られる場合には、状態を見ながら少しずつ工夫し、出来る限り安全に安心して過ごしてもらえるよう努めている。	個々の想いの把握に努めていて、部屋で広告、新聞紙を使いゴミ入れを折りたい人には常に絶やさないように置いておくようにしている。伝えるのが困難な人に場所や職員を代えて声掛けすることで意向に応えられることがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報収集し、職員全員が把握できるよう、入居前情報という書類を作成し、確認してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	連絡ノートとフロアノートを作成し、変化があるごとに記入してもらっている。また、毎朝のカンファレンスでも話し合う機会を作り、情報を共有していけるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日1人ずつ1か月ごとにカンファレンスを行い、変化がある場合には半年より前に医師、看護師、ご家族様とそれぞれ相談しながらプランを作成している。	管理者と職員は1か月毎に評価をしていて、6か月に1回と状態に変化があった時、医師、看護師に相談し意見を聞き、家族には変更部分の説明をし、意見を取り入れて計画を作成している。家族には直接面会時に説明し確認をもらっている。変更を職員には伝え共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子については、話した内容なども気になることがあれば記入している。その中で気づいた事や心配な事などがあれば職員で話し合い、連絡ノートやフロアノートに記入し、ケアの統一を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や本人の希望があれば、外出や外泊、施設に泊まっていただく事もできる。また、訪問歯科や訪問リハビリ、訪問美容室などもご利用頂けるようになっている。		

静岡県(グループホーム今日香 さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の防災訓練などにも参加し、応急救護の勉強を一緒にさせていただいている。また、地区の消防団とも連携をとっており、いざという時には対応して頂けるようになってきている。そのために、施設見学もして頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人であり、24h態勢のため、安心して頂いている。受診時にも職員と一緒に対応しており、重度の方も車いすごとの送迎があるため、負担が少なく受診出来ていると感じている。	医師の往診は週1回、訪問看護は日に2回ある為安心して医療が受けられている。緊急時は看護師を呼び、医師の指示で母体病院で受診、場合によっては母体病院から救急車で他の医療機関に行くこともある。家族に連絡し病院で待ち合わせしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1日2回午前と午後に看護師が往診に来るため、気になることがあれば報告し、指示を仰いでいる。また、往診時以外でも、連絡をすると来てくれ、対応してもらっている。必要に応じて受診も出来る態勢を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、ご家族様と一緒に説明を聞き、その後の対応などもその都度話し合っている。退院に向けても、病院関係者とカンファレンスを行い、退院してからもしっかりサポートさせて頂けるよう努めている。また、退院の日程も、ご家族様の予定に合わせている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針を説明している。24h態勢であり、その都度ご家族や医師、看護師と相談しながら対応している。また、職員の勤務体制も変更し、精神的な面のケアも心がけている。	入居時に家族からの希望を聞いている。状態が安定しなくなってから、血液検査他の検査データの結果で医師が判断し家族に説明、希望を聞いて看取りプランを作成している。プランに副って痛み、苦しみがないよう、エアマット体位交換などその時の状態を見て対応し看取りをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設や地域の防災訓練でも応急救護について学ぶ機会があり、それを職員にも伝えている。施設の勉強会でも事故対策マニュアルを作成し、把握に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	それぞれの災害を想定した防災訓練を消防署の方にも参加して頂いて行っている。地区の夜間を想定した防災訓練にも参加させて頂き、避難経路なども確認している。	2～3か月に1度火災・地震・水害・夜間などを想定して訓練を実施している。消防署は水害以外に来てくれて、出られる人は玄関の外まで時間を測っての避難訓練をしている。消火訓練は入居者も一緒に、煙体験、起震車訓練は職員が参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	昔から呼ばれ慣れている呼び方で呼ばせて頂いたり、方言を使って話をする事で、少しでも施設での生活に馴染んでもらえるよう工夫している。時間によって気分が変わってしまう方もいるため、その都度声かけの仕方や時間を変え対応している。	入居時に本人・家族から聞いている「じいじ」「ばあば」など希望の呼び名で声掛けしている。人形を子供のように思っている人に職員は同じ思いで接していて、生活の中から行動の理由を理解しその人に合った対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけや質問の仕方を工夫し対応している。重度の方には話すペースもゆっくりにし、表情や仕草を注意深く観察することで、少しでも気持ちがあくみ取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あえて入居者様の日程は決めておらず、1人1人が過ごしやすいよう努めている。みんなで一緒に何かをするのではなく、1人1人が出来ることを状況に応じて職員と一緒にやってもらえるような環境作りを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設に来て切ってくれる方がいるため、要望を伝え、本人の希望に沿えるよう努めている。本人の希望で、美容院に行きたければ、行きつけの美容院に通う事もできる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	みそ汁の具などを一緒に切れる方がいる場合には、職員と一緒に切ってもらっている。後片付けも、出来る方は自分で行ってもらう。また、味や固さなどは気になればその都度報告し、工夫してもらっている。	法人の中の給食センターから惣菜が3食届き、ごはんと汁物を作っている。座った状態で野菜の皮むきやネギを切るなど出来る人がやることもある。個々の状態で席割を考え、職員は見守りや介助をし声をかけながら食事が楽しみなものになるよう心がけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態は、常食・キザミ・ミキサーなど状況に合わせて作っている。汁物もとろみを調節し、作っている。栄養が上手く摂れない方は食事の他にエンシュアを摂取してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と入床時に歯磨きや口腔ケアを行っている。2週間に1回、訪問歯科があり、処置して頂いている。		

静岡県(グループホーム今日香 さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、それぞれの状況把握に努めている。立位困難な方でも、出来る限りトイレで排泄して頂けるようケアしている。	夜のみポータブルトイレで排泄する人もいるが昼は職員の声掛け、誘導でトイレで排泄している。椅子に座ってられない重度の人以外はリハビリパンツで布パンツの人もいる。排泄の状況によって、さりげなくトイレや浴室へ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩ける方はなるべく歩いたり手足を動かす運動をしてもらったりしている。 食事に関しては、ヨーグルトやおいもなど便通がよくなるような食物を摂取してもらえるよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきで入浴してもらっているが、毎日入りたい方は毎日入ってもらっている。拒否がある方には、声かけの仕方を変えたり、職員を変えて対応することで入浴してもらっている。	お風呂は毎日沸かしていて、午前中に2人介助の人が入浴するようにしている。入浴許可が出ていれば重度の人も1日おきに入浴している。排便があった人は常時入浴し清潔に保っている。希望して同性介助で入浴している人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は決めておらず、眠くなってきていると感じたら声かけし、入床して頂いている。 眠れないと訴える方には、少し話し相手になったり、ホットミルクを飲んでもらったりして対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人のファイルの中に処方箋を入れてあり、職員全員が把握できるよう努めている。状況の変化により薬に変更があった場合には、フロアノートに記入し、間違える事のないよう、気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自宅で新聞などでゴミ箱を作っていた方には、入居してからも作ってもらえるようにしている。散歩やドライブ、買い物など、希望があればその都度出来る限り対応させて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブなど出来る限り出かけるよう努めている。車いすの方も一緒に出かけられるような場所を探して外出している。ご家族様と一緒に外出される方もおり、外出中の様子を教えてくれている。	リクライニングで過ごしている人以外、車いすの人も玄関の横の椅子で日光浴や通りに面した庭園、近所の周りを散歩している。ドライブで花見や神社等へ出かけている。	

静岡県(グループホーム今日香 さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方がおらず、現在はご家族様から預かり、施設で管理している。 外出時には、本人用の財布を持って出かけ、職員が管理の元、払える方がいたら払ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりをされている方もいるし、電話をされる方もいるが、施設から電話をかける場合には、一度職員が連絡し、本人が話をしたいと訴えている事を伝え、都合の良いようであれば、話してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設にあるもののほとんどが家庭サイズになっており、なるべく不快を感じることなく過ごしてもらえるよう工夫している。 季節を感じられるよう、フロアや居室にも飾りをつけたり、和室を自由に使うてもらえるよう工夫したりしている。	平屋作りでユニット間は段差なく入居者はどこでも自由に行けている。畳の部屋は職員がどこからでも様子を見られる場所にあり、居室に一人での不安な人などが休む、洗濯物を入居者と一緒にとたむなどの場所になっている。どこの席からでもテレビが見られる配置を工夫している。臭気には芳香剤や換気で対処している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者様同士はテーブルで過ごす時も、ソファで過ごす時も、なるべく一緒に過ごせるよう工夫している。 フロアのTVの周りにはソファを置き、みんなで一緒に過ごせる空間作りを心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく馴染みの物を持って来てもらうようお願いしている。ぬいぐるみをお子のように大切にしている方には、そのまま一緒に過ごせるよう工夫している。	クローゼット、エアコン、換気扇、ナースコールは施設で備えてある。目の不自由な人の部屋は危険のないよう物を置かないようにしてある。馴染みの筆筒や仏壇、机、テレビ等を持ち込み、家族や本人の写真を壁に飾ってその人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	体力が低下しても対応できるよう、様々な所に手すりをつけてあったり、廊下の洗面台は車椅子の方でも使いやすいよう工夫されている。蛇口も、握力が低下した方にも使いやすいよう、職員が付け替えたりもしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600422		
法人名	医療法人社団 聖パウロ会		
事業所名	グループホーム今日香 ほし		
所在地	静岡県磐田市上野部1519-5		
自己評価作成日	平成25年10月29日	評価結果市町村受理日	平成26年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域で、1人1人が思い思いの生活をのんびりとしたペースで過ごせるよう工夫している。そのために、あえて施設での決まりは作らず、自由に生活できるよう心がけている。また、平屋建てなので、いつでも入居さんが外に出て過ごす事ができるということで、数年前にイングリッシュガーデンを造り、安全に散歩ができるよう、工夫している。医療面については、医療法人なので、1日2回看護師が、週に1回医師が往診に来てくれている。また、24h態勢なので、夜間も安心して過ごしていただける環境が整っている。そのため、重度化しても病院ではなく、最後まで今日香で過ごす事を希望される方も多い。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kai gokensaku.jp/22/index.php?action kouhyou detail 2012 022 kani=true&JigyosyoCd=2276600422-00&PrefCd=22&VersionCd=022>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成25年12月2日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	両フロアの玄関に飾ってあるため、管理者と職員全員が把握出来ている。また、入社時や会議などでも理念について説明をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地区の祭りや清掃活動にも参加している。また、祭りの前夜祭には今日香の庭でジャズライブを開催しており、地区の皆様にも回覧板でお知らせし、参加して頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の包括支援センターが行っている家族交流会に参加し、自宅で介護されているご家族と話をさせていたいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ケアに関して困った事などがあれば、相談したり話し合ったりして、意見を聞き参考にさせていただいている。また、入居者様の病気についても、聞き慣れない病気については説明している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などで話し合った内容について、市の職員さんが調べてくれ、連絡をくれることがある。また、分からない事があれば連絡し、相談させて頂くこともある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会の資料の中に、介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為という項目も入れて行っており、職員全員が把握出来るよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行っており、普段の自分達の声かけや対応の仕方などを振り返る機会をつくっている。また、普段も気になることがあれば、職員同士注意し合える環境作りに努めている。		

静岡県(グループホーム今日香 ほし)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年も成年後見人制度を取り入れたご家族様が いるため、職員全員に説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	何かあるごとに、説明書を作成し、ご家族様に 送っている。また、面会時などにも直接説明し、 不安な事や気になることがあれば、その都度説明 している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員なら びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に 反映させている	玄関に意見箱を設置している。 また、年1回家族会を行い話をさせていただいて いる。普段は面会時などに話をさせていただき、 そこで出た要望に関しては、職員と相談し改善し ていくよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議では、係の担当から話をしてもらい、少 しでも話しやすい環境作りを心がけている。 また、要望があった場合には、その都度職員と 相談し、みんなが使いやすいよう、過ごしやす いよう、対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	年数によって支給額が上がる。 資格取得に応じて資格手当が支給されている。 また、スキルに応じて介護職手当の支給額が上 がる事もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機 会の確保や、働きながらトレーニングしていくこ とを進めている	キャリアパスに応じて法人内での研修を行って いる。 また、法人外の研修にも参加してもらえよう努 めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させて いく取り組みをしている	法人全体での勉強会を行っており、職員同士交 流する機会を設けている。 また、施設交流会にも参加しており、法人外の施 設の方とも交流がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず本人が生活している場に行き、状態の把握をさせていただいている。 また、訪問時にも普段の生活をして頂き、あえて質問をせず、何気ない会話の中から不安な事などを把握出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	普段の生活の場や施設など、場所を変えて話をする事で、自宅での様子や施設に入居されてからの不安など、イメージが具体的に出来るよう努める。それにより少しでも不安が軽減できるようにしていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム対象者ばかりであり、入居希望の相談しかない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者様が自然に何かをしたくなるような環境作りを心がけ、食器洗いや掃除なども一緒に行っている。 また、昔の話や知恵などを聞き、一緒にやることで、職員も参考にさせてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様より、何か本人にしてあげたいという意見があった時には、なるべく意向に沿うよう努め、心配な事などがあった時には一緒に考え、対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の友人などが面会に来たり、面会に来た方以外にも知り合いがいると、何人かと話をして帰られたりしている。 また、面会だけでなく手紙の交換をしている方もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者様同士を同じテーブルにしたり、一緒にソファに並んで座ってもらったりすることで、関わりを多く持てるよう工夫している。 また、居室で過ごされる入居者様も、体調が良い日にはフロアに来れるよう努めている。		

静岡県(グループホーム今日香 ほし)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	最後までお世話をさせて頂く事がほとんどなので、あまり関わり合う機会がないが、近所に住んでいるご家族様が施設の庭を見に来てくれたり、連絡をくれたりする事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から訴えある時は、なるべく意向に沿えるよう努めている。困難な場合は、表情や仕草など、少しの変化でも見られる場合には、状態を見ながら少しずつ工夫し、出来る限り安全に安心して過ごしてもらえよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報収集し、職員全員が把握できるよう、入居前情報という書類を作成し、確認してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	連絡ノートとフロアノートを作成し、変化があるごとに記入してもらっている。また、毎朝のカンファレンスでも話し合う機会を作り、情報を共有していけるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日1人ずつ1か月ごとにカンファレンスを行い、変化がある場合には半年より前に医師、看護師、ご家族様とそれぞれ相談しながらプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子については、話した内容なども気になることがあれば記入している。その中で気づいた事や心配な事などがあれば職員で話し合い、連絡ノートやフロアノートに記入し、ケアの統一を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や本人の希望があれば、外出や外泊、施設に泊まっていただく事もできる。また、訪問歯科や訪問リハビリ、訪問美容室などもご利用頂けるようになっている。		

静岡県(グループホーム今日香 ほし)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の防災訓練などにも参加し、応急救護の勉強と一緒にさせていただいている。また、地区の消防団とも連携をとっており、いざという時には対応して頂けるようになっている。そのために、施設見学もして頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人であり、24h態勢なため、安心して頂けている。受診時にも職員と一緒に対応しており、重度の方も車いすごとの送迎があるため、負担が少なく受診出来ていると感じている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1日2回午前と午後に看護師が往診に来るため、気になることがあれば報告し、指示を仰いでいる。また、往診時以外でも、連絡をすると来てくれ、対応してもらっている。必要に応じて受診も出来る態勢を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、ご家族様と一緒に説明を聞き、その後の対応などもその都度話し合っている。退院に向けても、病院関係者とカンファレンスを行い、退院してからもしっかりサポートさせて頂けるよう努めている。また、退院の日程も、ご家族様の予定に合わせている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針を説明している。24h態勢であり、その都度ご家族や医師、看護師と相談しながら対応している。また、職員の勤務体制も変更し、精神的な面のケアも心がけている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設や地域の防災訓練でも応急救護について学ぶ機会があり、それを職員にも伝えている。施設の勉強会でも事故対策マニュアルを作成し、把握に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	それぞれの災害を想定した防災訓練を消防署の方にも参加して頂いて行っている。地区の夜間を想定した防災訓練にも参加させて頂き、避難経路なども確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	昔から呼ばれ慣れている呼び方で呼ばせて頂いたり、方言を使って話をする事で、少しでも施設での生活に馴染んでもらえるよう工夫している。時間によって気分が変わってしまう方もあるため、その都度声かけの仕方や時間を変え対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけや質問の仕方を工夫し対応している。重度の方には話すペースもゆっくりにし、表情や仕草を注意深く観察することで、少しでも気持ちよくみ取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あえて入居者様の日程は決めておらず、1人1人が過ごしやすいよう努めている。みんなで一緒に何かをするのではなく、1人1人が出来ることを状況に応じて職員と一緒にやってもらえるような環境作りを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設に来て切ってくれる方がいるため、要望を伝え、本人の希望に沿えるよう努めている。本人の希望で、美容院に行きたければ、行きつけの美容院に通う事もできる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	みそ汁の具などを一緒に切れる方がいる場合には、職員と一緒に切ってもらっている。後片付けも、出来る方は自分で行ってもらっている。また、味や固さなどは気になればその都度報告し、工夫してもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態は、常食・キザミ・ミキサーなど状況に合わせて作っている。汁物もとろみを調節し、作っている。栄養が上手く摂れない方は食事の他にエンシュアを摂取してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と入床時に歯磨きや口腔ケアを行っている。2週間に1回、訪問歯科があり、処置して頂いている。		

静岡県(グループホーム今日香 ほし)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、それぞれの状況把握に努めている。立位困難な方でも、出来る限りトイレで排泄して頂けるようケアしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩ける方はなるべく歩いたり手足を動かす運動をしてもらったりしている。 食事に関しては、ヨーグルトやおいもなど便通がよくなるような食物を摂取してもらえるよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきで入浴してもらっているが、毎日入りたい方は毎日入ってもらっている。拒否がある方には、声かけの仕方を変えたり、職員を変えて対応することで入浴してもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は決めておらず、眠くなってきていると感じたら声かけし、入床して頂いている。 眠れないと訴える方には、少し話し相手になったり、ホットミルクを飲んでもらったりして対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人のファイルの中に処方箋を入れてあり、職員全員が把握できるよう努めている。状況の変化により薬に変更があった場合には、フロアノートに記入し、間違える事のないよう、気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自宅で新聞などでゴミ箱を作っていた方には、入居してからも作ってもらえるようにしている。散歩やドライブ、買い物など、希望があればその都度出来る限り対応させて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブなど出来る限り出かけるよう努めている。車いすの方も一緒に出かけられるような場所を探して外出している。ご家族様と一緒に外出される方もおり、外出中の様子を教えてくれている。		

静岡県(グループホーム今日香 ほし)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方がおらず、現在はご家族様から預かり、施設で管理している。 外出時には、本人用の財布を持って出かけ、職員が管理の元、払える方がいたら払ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりをされている方もいるし、電話をされる方もいるが、施設から電話をかける場合には、一度職員が連絡し、本人が話をしたいと訴えている事を伝え、都合の良いようであれば、話してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設にあるもののほとんどが家庭サイズになっており、なるべく不快を感じることなく過ごしてもらえるよう工夫している。 季節を感じられるよう、フロアや居室にも飾りをつけたり、和室を自由に使うてもらえるよう工夫したりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者様同士はテーブルで過ごす時も、ソファで過ごす時も、なるべく一緒に過ごせるよう工夫している。 フロアのTVの周りにはソファを置き、みんなで一緒に過ごせる空間作りを心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく馴染みの物を持って来てもらうようお願いしている。ぬいぐるみをお子のように大切にしている方には、そのまま一緒に過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	体力が低下しても対応できるよう、様々な所に手すりをつけてあったり、廊下の洗面台は車椅子の方でも使いやすいよう工夫されている。蛇口も、握力が低下した方にも使いやすいよう、職員が付け替えたりもしている。		